

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

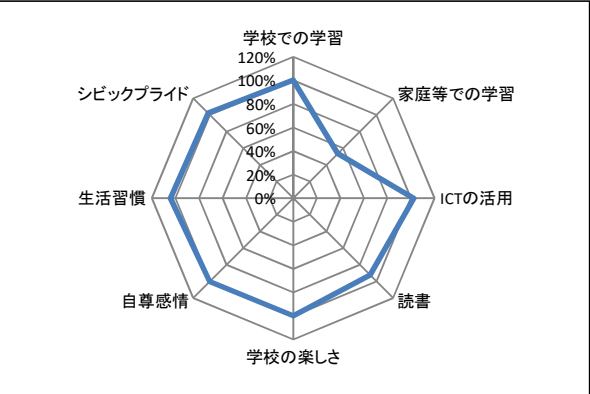
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本校の結果は全国・福岡県平均を下回る傾向が見られる。特に、文章を基に考えをまとめたり、理由や根拠を明確にして表現したりする力に課題がある。一方、選択式問題では一定の理解が見られ、基礎的な読解力は概ね身に付いていると考えられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題である文章の内容を正確に読み取り、設問の意図に沿って選択する問題では、比較的高い正答率を示している。	下回っている
	努力が必要な問題	資料や文章を基に、自分の考えを理由とともに記述する問題では正答率が低く、継続的な指導改善が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	特に「図形」「測定」「データの活用」領域で差が大きい。選択式に比べ記述式の正答率が著しく低く、思考力・判断力・表現力等に課題が見られる。一方、基礎的な計算や単純な図形理解では一定の成果が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	基本的な計算技能や、図やグラフから数量関係を直接読み取る問題では、比較的高い正答率を示している。	下回っている
	努力が必要な問題	数量関係を基に考えを説明したり、条件を整理して解決する記述式問題で正答率が低く、指導の充実が必要である。	
理科	全体的な傾向や特徴など	特に「エネルギーを柱とする領域」で差が大きい。観察結果や実験結果を基に考察する問題や、理由を説明する記述式問題に課題が見られる。一方、基礎的な知識を問う選択式問題では一定の理解が見られ、知識の定着を活用へつなぐ指導が求められる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	基本的な理科用語や現象について、資料や図から直接読み取り、正しい内容を選択する問題では比較的高い正答率を示している。	下回っている
	努力が必要な問題	実験結果や条件を基に因果関係を考察し、自分の考えを理由とともに記述する問題で正答率が低く、改善が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
本校の質問調査結果から、学校での学習活動については、授業中に話を聞く、課題に最後まで取り組むなど、基本的な学習規律は概ね定着していることが分かる。一方で、自分の考えを進んで発表する、友だちの考えと比較しながら学びを深めるといった主体的・対話的な学習に関する項目では十分とは言えず、思考を言語化する力に課題が見られる。
家庭での生活習慣に関しては、起床・就寝時刻や朝食摂取などの基本的な生活リズムは比較的整っているものの、家庭学習の時間や内容にはばらつきがあり、計画的に学習に取り組めていない児童も見られる。また、読書や学習内容を振り返る習慣が十分に身に付いていない傾向も確認できる。
これらの結果から、学校では見通しをもった学習活動や振り返りの充実を図るとともに、家庭と連携し、家庭学習の質を高める取組を進めることが重要である。生活習慣の安定を学習意欲や学力向上につなげる指導の工夫が求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科において、基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、課題に対する考えや根拠を説明する学習活動を意図的に位置付ける。特に、資料や実験結果、文章や図表を基に考察し、言葉や式、図で表現する場を充実させることで、思考力・判断力・表現力の向上を図る。読みの力の構築の為、全校で読書に計画的に取り組むようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭と連携し、規則正しい生活リズムの定着を基盤として、家庭学習の質の向上を図る。学習時間だけでなく、学習内容や振り返りの視点を共有し、読書や学習の習慣化を促す。家庭への情報発信を工夫し、学びを支える生活習慣の改善につなげる。